

福井市内における冬季のシンジュキノカワガの採集記録

梅村 信哉*・中野 光**

A winter collection record of *Eligma narcissus* in Fukui City, Fukui Prefecture

Shinya UMEMURA* & Hikaru NAKANO**

(要旨) 2024年1月16日に福井市中ノ郷町内でシンジュキノカワガのオス成虫1個体が採集された。

キーワード：シンジュキノカワガ, 福井市, 冬季

シンジュキノカワガ *Eligma narcissus* (Cremer) はコブガ科 Nolidae に属する開長75mmほどの大型のガである (岸田, 2011)。わが国では1909年に熊本市で発見されたのが最初で、その後、北海道から鹿児島まで幼虫または成虫の発見が報告されている (宮田, 1986)。福井県内における本種の記録は少なく、福井市足羽山や福井市大安寺 (井崎, 1971)、大野市朝日 (下野谷, 1994) で採集記録が報告されている程度である (下野谷・浅野, 1998)。

第二著者の中野は福井市内において冬季に本種の成虫を採集したので、下記のとおり報告する。

シンジュキノカワガ *Eligma narcissus* (Cremer)
福井市中ノ郷町 (福井県内水面総合センター駐車場),
1♂, 16-I-2024, 中野 光採集, 福井市自然史博物館
保管 (FCMNH-JI35550 図1, 2)

シンジュキノカワガは移動性のガであり、日本へ飛来して1~2世代を繰り返すことはあるが、日本では越冬することができないとされている (宮田, 1986)。しかし、2023年秋に兵庫県、京都府西部にかけて広域に本種の幼虫が大発生し、2023年12月~2024年3月に野外で成虫が数例確認されたことが報告されている (近藤, 2024)。岸田 (2011) にも、本種の成虫は7~11月に得られ、9月に得られることが多いものの、3月に採集されたこともあることが記載されている。

本種の食草であるシンジュ *Ailanthus altissima* は中国原産の落葉高木であり、街路樹や公園などによく植えられるとともに、かつては養蚕用にも栽培されていたという (林, 1985; 林, 2020)。現在では、これらから逸出したものが野生化しており、林縁や河原、道端などにわりとふつうにみられ、しばしば群生する

こともあるとされる (林, 2020)。兵庫県内では、シンジュがシカの食害を受けないこと、成長速度が速いこと、伐採しても根元から多数の萌芽が生長することなどから、シカの個体密度が高い地域では急速に分布を拡大しており、これが2023年のシンジュキノカワガの広域発生につながった可能性が指摘されている (近藤, 2024)。

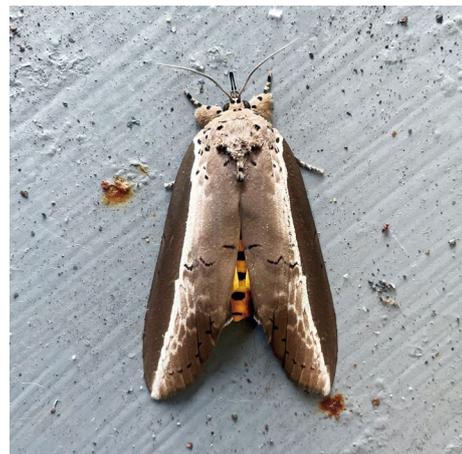


図1: 福井市内で冬季に確認されたシンジュキノカワガ (福井市中ノ郷町 (福井県内水面総合センター駐車場), 2024-I-16, 中野 光撮影)。



図2: 福井市内で冬季に採集されたシンジュキノカワガ (福井市中ノ郷町 (福井県内水面総合センター駐車場), 2024-I-16, 中野 光採集・福井市自然史博物館保管 FCMNH-JI35550)

*福井市自然史博物館 〒918-8006 福井市足羽上町147

Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui-shi, Fukui 918-8006, Japan

** 京都府立海洋高等学校 〒626-0074 京都府宮津市上司1567-1

Kyoto Prefectural Marine High School, 1567-1 Joushi, Miyazu-shi, Kyoto 626-0074, Japan

隣県の石川県では、シンジュキノカワガが2012年頃から頻発して幼虫が発生しはじめ、その後も県内各地で発生が続いているとの報告がある（富沢，2013；2020）。福井県内でも20年ほど前から嶺南地方を中心にシカによる農作物の食害や、植林木幼齢樹への枝葉食害などの農林業被害が顕在化し、近年では、嶺南地方を中心に森林下層植生がシカの食圧により急速に消失していることが報告されている。さらに、最近では従来生息が限られていた嶺北地方でのシカの分布拡大と生息密度の急増が報告されていることから（福井県，2022），兵庫県と同じようにシカの個体群密度の高い地域では今後シンジュが急速に分布を拡大し、シンジュキノカワガの発生が増える可能性がある。2024年の夏季には、福井市足羽山の福井市自然史博物館周辺でも例年になくシンジュキノカワガの幼虫が確認されており（図3），今後、県内における本種の発生状況に注意を払う必要がある。なお、2000年以降に県内において採集されたシンジュキノカワガの標本が福井市自然史博物館に収蔵されているので、本稿で併せて報告しておく（標本番号のFCMNHは省略して表示する）。



図3：福井市足羽山で見つかったシンジュキノカワガの幼虫（2024-IX-2，梅村信哉撮影）
福井市足羽山（福井市自然史博物館周辺）において、2024年8月1日に2個体，9月2日に1個体，9月9日に1個体のシンジュキノカワガの幼虫が確認されている。

シンジュキノカワガ *Eligma narcissus* (Cremer)

坂井市三国町，1♀，23-X-2009，下野谷豊一（JI12282）
坂井市三国町黒目，4♂，21-XI-2003，下野谷豊一（JI2953）；1♂，21-XI-2003，採集者不明（JI2952）；1ex（蛹），27-IX-2009，下野谷豊一（JI15413）；1♂，5-X-2009，下野谷豊一（JI15412）；1ex（蛹），6-X-2010，下野谷豊一（JI15414）
坂井市丸岡町大森，1♂，3，XI，2024，山本土郎（JI36602）
福井市足羽山，1♂，10-IX-2003，下野谷豊一（JI33083）；1ex（幼虫），1-VIII-2024，梅村信哉（JI36292）
敦賀市横浜，2exs（蛹），24-XI-2018，梅村信哉・櫻井知栄子（JI25844，25845）

本稿を取りまとめるにあたり、福井市自然史博物館にシンジュキノカワガの標本をご寄贈頂いた下野谷豊一氏と山本土郎氏、敦賀市横浜におけるシンジュキノカワガの調査にご協力いただいた櫻井知栄子氏に心より御礼申し上げます。

引用文献

- 福井県，2022，第5期福井県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）。福井県，45p.
- 林 将之，2020，山溪ハンディ図鑑14 増補改訂 樹木の葉 実物スキャンで見分ける1300種類。山と溪谷社，823p.
- 林 弥栄編，1985，山溪カラー名鑑 日本の樹木。山と溪谷社，751p.
- 井崎市左エ門，1971，福井県産蛾類目録。小浜昆虫同好会，65+10PL.
- 岸田泰則編，2011，日本産蛾類標準図鑑Ⅱ。学研教育出版，416p.
- 近藤伸一，2024，シンジュキノカワガ，兵庫県，京都府西部で大発生。月刊むし，(641)，2-11.
- 宮田 彬，1986，日本の昆虫④ シンジュキノカワガ。文一総合出版，116p.
- 下野谷豊一，1994，福井県産蛾類分布ノート(2)。福井市自然史博物館研究報告，(41)，89-100.
- 下野谷豊一・浅野裕治，1998，チョウ目 LEPIDOPTERA。福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編，福井県昆虫目録（第2版），福井県県民生活部自然保護課，441-556.
- 富沢 章，2013，気になるシンジュキノカワガの発生。とっくりばち，81，58-59.
- 富沢 章，2020，石川県の蛾類。自刊，385p.

A winter collection record of *Eligma narcissus* in Fukui City, Fukui Prefecture

Shinya UMEMURA* & Hikaru NAKANO

Abstract

A male of *Eligma narcissus* (Cremer) was collected in Nakanogo-cho, Fukui City, Fukui Prefecture on 16th January, 2024.

Key words

Eligma narcissus (Cremer), winter, Fukui Prefecture